

## 第5学年2組 道徳学習指導

指導者 中根 正登

### 1 主題 男女の協力2 (3) 『銅メダル』パーティー「ひとりの手 みんなの力」

#### 2 指導観

##### 子どもの実態

本学級の子どもは、年度当初は男女の仲が良く、休み時間でも一緒に遊んだり話したりする姿をよく見かけた。しかし、次第に男子、女子で集まるようになり、宿泊学習で活動班を構成する時は男女別々にグルーピングし、それを組み合わせて男女混合の班を作るという姿がみられた。これは、互いに異性を意識して、一緒にいることに対して抵抗を感じているのと共に、男女が協力していく大切さはわかっていても、互いを認めあったり、信頼しあったりといったよさについては理解できてないためと考えられる。

子どもたちはこれから6年生に向けて学習面や生活面において様々な取り組みを行うことになり、その中で男女が協力して活動しなければならぬ場面が増えて来ることが予想される。この時期に本題材を学習することで男女が協力するよさを知るということは、男女の良い協力関係のもとで、それぞれの持ち味を發揮しながら一人一人が成長していくという今後の生き方を育てるという意味においても意義深い。

##### 主題の価値

本主題の価値を次のように考える。男女が認め合い、協力し助け合うという意識は、人類共通の価値であり、これから社会や家庭を構成する一員として必要不可欠な考え方である。互いの違いを認識し、自覚しながら相手のよさを見つけることで仲良く協力し合うこと、助け合うことのよさを感じられるようになるのである。さらにそれは相手のよさから学び、互いに成長しようという生き方につながっていくと考えられる。

異性への意識は中学年の頃に始まり、対立し合うという行動になってあらわれる。その傾向は5年生頃まで続くが、6年生になると互いの性を意識し自覚した上で協力していこうとする子どももでてくる。中学生になると男女がお互いに異性についての理解を深め、相手の人格を尊重する学習に発展していく。男女の違いを互いに尊重し合うことはよりよい社会を構成していく上でも重要である。

##### 指導・支援の手だて

**事前** 体育の授業などで、男女混合のチームを作り男女の協力が必要とされる場面を多く設定して男女が協力できていない実態を体験することで課題意識を高める。

**本時** 男女混合のサッカーチームを題材とした資料を活用し、それぞれの立場で共感させていくことで、自分たちの体験に重ね合わせ、男女協力していくために必要な心を追究する。

**事後** 花鶴っ子集会・花鶴フェスタなどの取り組みを通して本時で発見した価値がいかにされたか評価する。

##### めざす子どもの姿

男女がお互いに認め合い、協力し共に高まろうとする子ども。

#### 3 資料の活用について / 「かがやき」の活用について

正のチームはクラスのサッカー大会で男女が協力してがんばるが、結果的に4チーム中の3位に終わってしまう。しかし、その練習過程や試合中に生まれたチームワークのおかげで、優勝以上の満足感にひたることができた。本時ではなかなかうまくプレーできない光江に対するチームメイトの気持ちに男女それぞれの立場で共感させていくことで、男女が互いに信頼しはげまし合い、協力していくよさに気づかせたい。また、「ひろげる段階」でかがやきの「ひとりの手 みんなの力」の写真を掲示し、協力しながら大きな事を成し遂げたという実例を見ることで、「自分たちも協力するよさを味わいたい」という意欲をもたせたい。

#### 4 本時指導の考え方

本時では、男女が互いに認め合い、信頼し合いながら協力するという心を見つけることを目的としている。そのために「きづく段階」では、体育の授業や学級の取り組みで男女の協力が必要だった場面をアンケートで想起させ、なかなかうまく協力できていない実態を明らかにし男女協力するためにはどのような心が必要か探ろうという意欲を喚起させる。「さぐる・うみだす段階」では、正のチームが練習してもうまくいかず、まわりから冷やかされる時と、試合中にうまくプレーできない光江に声かけをする時の気持ちに共感させる。男女それぞれの立場からの発言を交流させることで、実際の体験と重ね合わせながら男女協力するためにはお互いを認めあう心、信頼する心が必要であることを発見させたい。また、4チーム中3位ながら価値のある銅メダルであったことを「心のトロフィー」で表すことで、正のチーム得たものが価値あるものであることをわからせたい。「ひろげる段階」では、「かがやき」の「ひとりの手 みんなのちから」の写真を掲示することで、自分たちと同じ小学生が協力することで大きなことができることに気

づかせ、自分たちもできる、やってみたいという気持ちとともに、身近な生活にもいかしていこうとする意欲をもたせたい。

5 本時のねらい

意欲的に学習に取り組み、学習した内容を今後にいかして、男女協力していこうとすることができる。

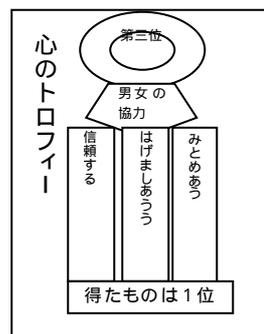
【肯定感】

登場人物に共感し、男女協力するには互いに認めあう、信頼する心が必要なことがわかる。【有能感】

吹き出しに自分の考えを書き込み、交流することで自他の考えのよさに気づくことができる。【有用感】

6 展開

段階	学習活動と子どもの意識の流れ	教師の支援
きづく	<p>1. アンケートの結果をもとに本時の学習のめあてをつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何か失敗したら文句を言ってしまう。</li> <li>・男子だけ、女子だけの方がいいと思うときがある。</li> </ul> <p style="text-align: center;">男女協力するために必要な心を見つけよう</p>	<p>アンケートの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女子、男子で一緒に何かしたときに困った事がありますか</li> <li>・男子だけ女子だけで活動したいと思うときがありますか</li> </ul>
さぐる・うみだす	<p>2. 資料『銅メダル』パーティーを読み、男女が協力するために必要な心をさぐる。</p> <p>(1) 男女の練習がうまくいかず、まわりから冷やかされているときのみんなの気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いやだ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">表現活動</span></li> <li>・はずかしい <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">交流活動</span></li> <li>・どうせ自分ではできない</li> </ul> <p>(2) 「失敗してもいいからさ思い切っていこう」と言ったときの正の気持ち <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">交流活動</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなでがんばりたい</li> <li>・女子にもがんばってほしい</li> </ul> <p>(3) 試合中、うまくプレーできない光江に声をかけたときの気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなでがんばろう</li> <li>・信じてあげよう <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">交流活動</span></li> <li>・はげまし合おう <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">表現活動</span></li> </ul> <p>3. 正のチームが得たものが何かを話し合い、男女が協力していくためにはどんな心が必要かをうみだす。</p> <p>(1) 何が1位だったのか <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">交流活動</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いにはげまし合ったこと</li> <li>・みんなでうまくなれたこと</li> </ul> <p>(2) 男女が協力していくためにはどんな心が必要か</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たがいに認め合う</li> <li>・信頼する</li> <li>・はげましあう</li> </ul> </div>	<p>練習中のチームの悩みを掲示することで、チームのみんながどのように思っていたか共感しやすくする。</p> <p>試合前に持ち味を生かして役割分担を決めた事を確認することで、男女ともががんばろうという気持ちに共感しやすくする。</p> <p>困った顔をした光江の絵のまわりに吹き出しを貼り、その下に気持ちを貼っていくことで「みんなで一緒にがんばろう」、「はげまし合おう」という気持ちからわかりやすくする。。黒板上に大きな銅メダルを掲示し、その中に得たものを書き込むことで、正のチームが3位ながら十分に満足できたということを視覚的理解しやすいようにする。</p> <p>銅メダルの下に必要な心を掲示し一つのトロフィーの形を作ることで、互いに認め合い、信頼し合うことで価値のある3位になったこと、また、それらの価値が本時学習する価値であることが理解しやすいようにする。</p>
ひろげる	<p>4 自分の中にも価値があることに気づき、実践していこうとする意欲をもつ。</p> <p>(1) 自分たちの中にも男女協力するために必要な価値があることに気づく。</p> <p>(2) かがやき「ひとりの手 みんなの力」を見て男女協力するすばらしさに気づき、色々なことに取り組んでいこうとする意欲をもつ。</p>	<p>運動会の写真を掲示し、競争遊技の作戦をみんなで立てたことを想起させることで、結果的には負けたが、男女が協力した価値がある活動であったことを気づきやすくする。かがやき「ひとりの手 みんなの力」の写真を掲示することで、協力して何かを成し遂げたいという意欲をもてるようにする。</p>



## 7 児童の実際

### (1)「きづく」段階

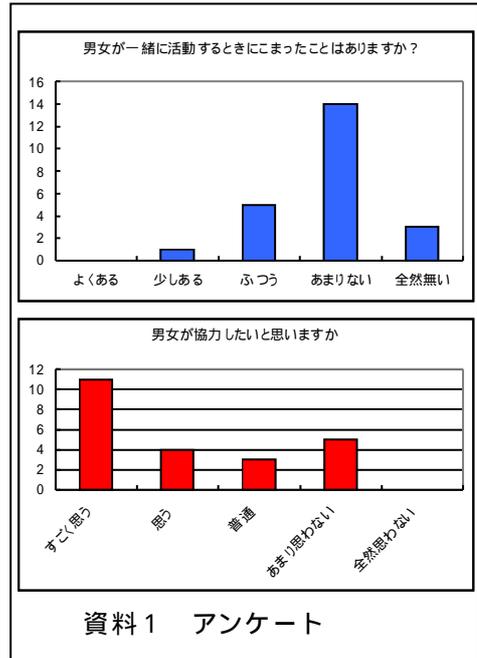
アンケートの結果をもとに本時の学習のめあてをつかむ

#### 児童の様子

「男女の協力」について事前にとったアンケート（資料1）を提示した。始めはアンケートの結果におおむね満足した様子だった。そこで「協力するときにこまったこと」の事例を挙げさせると、「一緒にサッカーをしている時にいやな思いをした。（女子）」「席替えで協力できなかった（男子）」という意見が挙がった。また、これからの男女の協力が求められる行事、仕事が多くなるということを考えさせると、もっと協力できるようになりたいという発表が出るようになり、「男女協力するために必要な心を見つけよう」というめあてを立てた。

#### 考察

アンケートの結果が予想したよりも子どもが満足しているものになった。これは授業前に具体的に男女が協力する場面が少なかったためと考えられる。そこで、日常生活での具体的な例や、これから男女の協力が必要になって来ること等を考えさせたことで、「男女協力するために必要な心を見つけよう」という本時のめあてに対する意欲付けができたと考えられる。



### (2)「さぐる・うみだす」段階

資料『銅メダル』パーティーを読み、男女が協力するために必要な心をさぐる。

#### 児童の様子

まず、練習してもうまくいかないチームの状態を共感させた。学習プリントに記入させると（資料2）「冷やかされていやだ」「このままでは負けてしまう」「やりたくない」「何で女子はできないんだ」等という考えを多く書いていた。それらを発表させる中でどうしてそのような気持ちになったかということを考えさせると「認め合っていないから」「あきらめているから」という考えが出された。

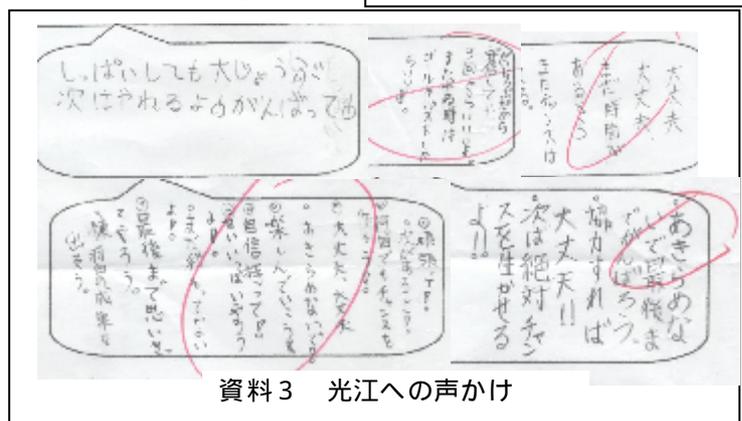
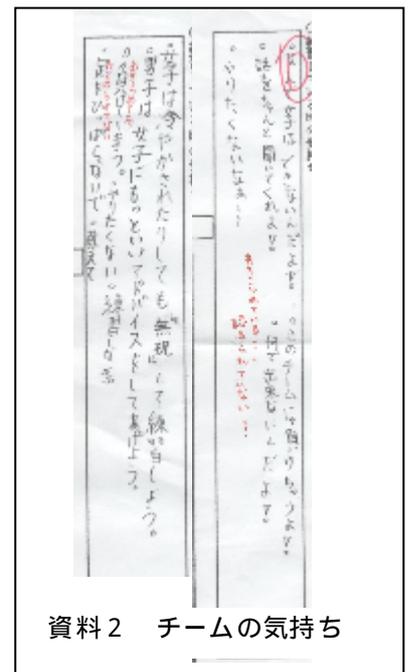
そこで「失敗してもいいからさ、思い切っていこう」と言った正の言葉にどんな気持ちがこめられていたか考えさせた。「認め合っていこう」「あきらめない」「助け合おう」という考えが出された。

そして試合の場面で失敗を重ねる光江に「どのような気持ちで」「どんな声をかけるか学習プリントの吹きだしに書かせると（資料3）「大丈夫！」「ドンマイ」「みんなで楽しもう」「またチャンスが来るよ」等多くの言葉が発表された。

最後に銅メダルパーティーを開いた場面で、4チーム中の3位でありながらなぜ得たものが「1位」と思ったのかを「心のトロフィー」（写真1）を作っていくことで考えた。これまでに考えた「男女協力していくために必要な心」をまとめていきながら3位のメダルがトロフィーに変わったことで、正のチームが得たものが価値の高いものであることを実感していた。

#### 考察

男女が協力するために必要な心をさぐるために4つの段階を設定した。まず、練習がうまくいかないチームでどんな気持ちになるか考えさせることで、男女が協力する場面でうまくいかないのは何故かを考えさせた。次に正の言葉からどのような気持ちが必要なのかを気づかせ、光江への超えかけの言葉考えさせることで、本時で見つける心を自分自身の言葉で表現できるようにした。最後にそれらを「心のトロフィー」で表すことで男女協力する心が価値あるものであることを確認した。



最初の段階で「認め合っていない」「あきらめている」という考えが出るのに時間がかかってしまった。子どもたちの日常から考えることができるような発問が必要だったと考える。ただ、ここで出た考えが正の気持ちを考える足がかりとなり、次の活動で自分の言葉で吹き出しに表現するときには多くの言葉書いたりしていたことからこの流れで児童たちに考えさせることは有効だったと考える。

また、それらを「心のトロフィー」として黒板上で表したことは正のチームが男女協力することでみんなが満足できたことを視覚的にとらえることができるうえで効果があったと考える。

### (3)「ひろげる」段階

自分の中にも価値があることに気づき、実践していこうとする意欲をもつ。

#### 児童の様子

まず、この学級でも男女が協力した場面がなかったか考えさせた。始めは係活動や当番活動の事例を挙げていたが、6月の運動会の写真を掲示したら多くの子どもが「あ、そうか」と声をあげて思い出したようだった。

運動会の競争遊技では作戦の立て方が勝敗のポイントになっていた。そこで、休み時間などにみんなが集まって作戦会議を開いた。練習では勝つことができたが、運動会当日は、負けてしまったのである。子どもたちから「この話に似ている」という声があがった。そこで「みなさんにも正のチームが得たものと同じものがあるんじゃないのかな。」と問いかけたら、「そうか」「そうだよ」というつぶやきが多く聞かれた。

次にかがやき「ひとりの手 みんなの力」の「空き缶ザウルス」の写真を掲示した。最初は一部分の小さな写真を見せて「これ何と思う？」と問いかけると多くの子どもが「(集めた)空き缶の山」と答えていた。次に全体写真を拡大コピーしたものを掲示すると「わ~!!」と大きな声があがった。この空き缶ザウルスは子どもたちが協力して作ったものであることを教え、「自分たちも作ってみたい」「何かみんなで作ってみたい」という声がかかれた。その中で「千羽鶴もできる」という声がかかれた。

本学級ではこの時期、長期入院をしている子どもがあり、千羽鶴を折る計画がたっていた。しかし、千羽鶴という数が子どもたちを躊躇させていた。学級単独で作るか学年にお願いするかで迷っていた時期だったのである。しかし、先ほどの発言を受けて「自分たちでやってみよう。」という多くの意見が挙がる中で授業を終えた。

#### 考察

運動会での経験は、本授業の資料である「銅メダルパーティー」と同じような話であったので、写真資料として掲示した。結果として自分の中に「男女協力するために必要な心」を発見することができた。時期としては半年も過ぎていたので、もう少し子どもが実感をこめて発見できるような事例を準備する必要があったと考える。

空き缶ザウルスの写真は子どもに大きなインパクトを与え、自分たちの直面している課題にも協力してがんばろうという意欲付けにもつながったので有効だったと考える。

## 8 全体考察

### (1) 成果

授業の導入部にアンケートを用いたことは、自分の経験から課題意識を高めていく上で有効であった。

【肯定感】

登場人物の心情に共感させるために吹き出しを用いたことは、自分の言葉で表現・交流することでより深く養生人物に共感することができた上で効果があった。

【有能・有用感】

本授業で見つけた価値を「心のトロフィー」でまとめたことで、「男女協力すること」が大切なこと(価

写真1 心のトロフィー



写真2 掲示した運動会の写真



写真3 空き缶ザウルス

